

久宝寺事業センター

1 工場概要

- ▶ 住所 大阪府八尾市神武町2番35号
- ▶ 従業員数 約310名（内 クボタ従業員：約260名）
- ▶ 敷地面積 38,921㎡

2 事業概要

▶ 事業内容

久宝寺事業センター（以下事業所）の発足は、昭和48年。それまでクボタ創業の地である船出町工場（大阪市内）で生産していた計量機器、自動販売機事業の飛躍的拡大をはかるために、現在の大阪府八尾市へ移転したのが始まりです。昭和52年には粉碎機器部門が枚方製造所から移管され、以来、計量機器・自動販売機・粉碎機器の3つの事業が当工場の中核を形成してきました。

その後、昭和60年には電子機器の組立部門が発足。さらに昭和61年にはK-CADの開発が行われるなど、時代の脚光を浴びるハイテク分野への積極的な事業展開を推進しています。一方、事業が拡大した自動販売機部門は、平成元年に新しく建設された竜ヶ崎工場（茨城県）へ移管されました。

現在では、計量器や精米機などの電装機器事業及びその関連会社である(株)クボタ計装関西支社、そして、破碎機や選別機を中心としたリサイクル関連事業を担当するクボタ環境サービス(株)、汚水をきれいに蘇らせる「液中膜」事業の製造・サービスを担当するクボタメンブレン(株)が業務を行っています。

▶ 主要製品

(1) 株式会社クボタ 電装機器事業部

計量機器関連事業

<標準はかり>



中・大型 台はかり



防塵防水台はかり



ホイストスケール



充填機専用型 指示計

<トラックスケール>



指示計

トラックスケール

久宝寺事業センター

計量システム関連事業

〈LPG充填システム〉



回転式ACAD型充填機

〈粉粒体供給システム〉

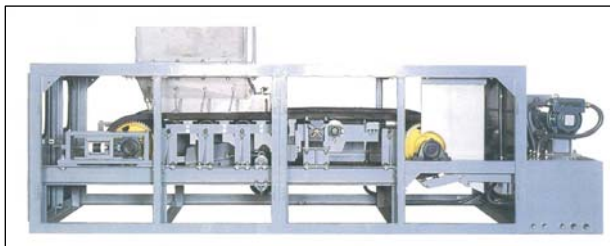


ベルトウェイングフィーダ



カセットウェイングフィーダ

〈産業用はかり〉



ポイドメータ



フレコンバックスケール

制御システム事業



クリーン精米屋

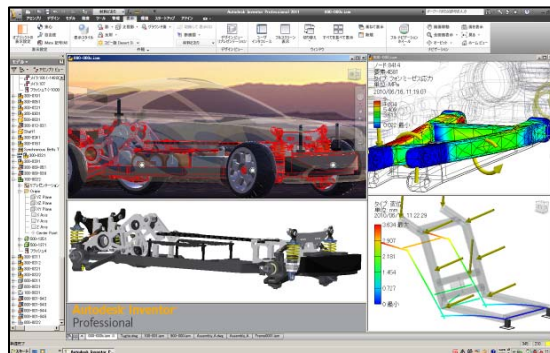


色彩選別機

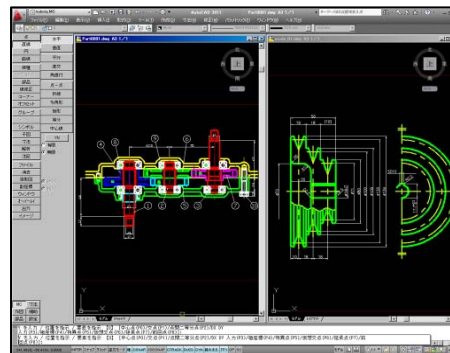


フルーツセレクトター・ボイスガイド

CAD事業



Autodesk Inventor Professional



クボタ K-CAD PEDRAS MC
(AutoCAD対応)

久宝寺事業センター

(2)クボタ環境サービス株式会社



マスチフ
(一軸破碎機)

(3)クボタメンブレン株式会社



アイダル
(縦形回転式破碎機)



浸漬型膜分離装置
液中膜



膜カートリッジ

3 工場変遷

昭和48年 9月22日	船出町工場より衡器・計量機器、自動販売機事業が移転。
昭和52年	粉碎機器部門が枚方製造所より移管。
昭和60年	電子部品組立部門の発足。
昭和61年	K-CADの開発開始。
平成元年	自動販売機部門が竜ヶ崎工場へ移管。
平成10年 4月	技術開発本部電子技術センターが転入。
平成12年 4月	電装機器事業部FA営業部および(株)クボタ計装関西支社が転入。
平成13年 8月	リサイクルエンジニアリング部製造課がクボタリテックス(株)に移管。
平成13年10月	FA技術部がFAエンジニアリング部に集約。
平成14年 2月	クボタメンブレン(株)が転入。
平成14年 3月	技術開発本部電子技術センターが転出。
平成14年10月	事業所の名称を「久宝寺工場」から「久宝寺事業センター」に改称。
平成14年11月	リサイクルエンジニアリング事業部の技術部、工事管理部門および、環境エンジニアリング事業部の機材課が阪神事務所に転出。
平成15年10月	リサイクルエンジニアリング技術第3部の一部が復帰。
平成16年10月	ロードセル課と電子機器課がFAエンジニアリング部傘下に編入。 また、開発課が新規に発足。
平成17年 4月	電装機器事業部のFA営業部とFAエンジニアリング部が分割され、計量機器部と計量システム部が発足。
平成18年 5月	環境リサイクル事業部リサイクル技術部門が阪神事務所より転入・復帰。
平成19年 5月	環境リサイクル事業部門が再編され、クボタリテックス(株)が解散し、リサイクル事業ユニットとして再発足。
平成20年 4月	電装機器事業部の計量システム部と計量機器部が計量システム部に統合。
平成20年 8月	膜ソリューション技術部及び環境機器開発センターの実験設備を当所に移管設置。
平成22年 3月	電装機器事業部の計量システム部、制御システム部及びCAD部が機能別に再編成され、電装機器営業部、電装機器技術開発部及び電装機器製造部が発足。
平成22年 4月	リサイクル事業ユニットがクボタ環境サービス(株)に統合。

久宝寺事業センター

4 環境方針

▶ ISO環境方針

久宝寺事業センターの環境方針は、「クボタグループ環境宣言(2006年6月1日改訂)」に示されている環境宣言及び行動指針に基づいて策定しています。

久宝寺事業センターでは、電装機器事業部、(株)クボタ計装、クボタ環境サービス(株)のリサイクル製造部門、クボタメンブレン(株)がそれぞれ事業運営を行っています。

電装機器事業部は電子・電気をコア技術として、計量関連製品、精米関連製品等の開発、製造、販売を行い、(株)クボタ計装は計量関連製品の販売・サービス及び、金型温調機・計量混合機等の製造・販売を行っています。クボタ環境サービス(株)のリサイクル製造部門では、廃棄物のリサイクルに欠かせない破碎機・選別機を製造しています。クボタメンブレン(株)は、汚水をきれいに蘇らせる「液中膜」事業の製造・サービスを担当しています。

これらの事業組織と久宝寺事業センターのスタッフが助け合い、連携しあって、エネルギー消費の低減、廃棄物の発生抑制と分別による再資源化の推進、環境に配慮した製品・サービスの市場への提供などの環境保全活動を行うとともに、影響力を発揮できる事業全般に亘る項目について環境配慮・改善活動に取組み、以下に示す「久宝寺事業センター 環境行動指針」に基づき、将来の地球環境の維持・改善に役立つよう、今後とも環境に配慮した企業活動を継続して着実に推進していきます。

【久宝寺事業センター 環境行動指針】

1. 環境関連法規制、八尾市をはじめとする関連自治体の条例等を遵守して、各々の事業がその事業実態に応じた環境改善への具体的な目的・目標を掲げ、その達成に向けて努力するとともに、その実施状況を定期的に評価・見直しを行って継続的改善を推進します。
2. 生産活動に伴って発生する環境に著しい影響を及ぼす項目については自主規制値を設定し環境保全に努めます。更に事業のあらゆる側面で、エネルギー効率やリサイクルのレベルアップに意を用い、全員の創意工夫により資源の有効利用と廃棄物の削減に向けた活動を行います。
3. 新製品開発やシステム製品の設計にあたっては、省資源化・省エネルギー化・有害物資の削減・リサイクル率向上・電波障害防止などをできるだけ織り込んだ製品アセスメントを実施し、製品環境負荷の低減に努めます。
4. 製造・サービス活動においては、原材料・部品及び梱包材等の補助材料、設備などの購入にあたっては、より環境に配慮したものを採用するなど、環境保全性を高めるように努力します。また、取引先企業においても、環境保全活動への理解と協力を率先して推進します。

久宝寺事業センター及びクボタグループ会社の全ての人が、それぞれの事業にかかわる環境保全の重要性をよく考え、様々な環境保全活動に前向きに取り組むように、この方針をクボタの従業員、クボタグループ会社の従業員、久宝寺事業センター構内の協力会社の従業員に配布し、教育、啓発に活用します。又、この方針は、社会への責任を示すため、外部からの要求に応じて一般の人が入手可能なものとします。

改訂5 2010年 8月31日

制定 1999年 1月11日

株式会社 クボタ 久宝寺事業センター所長

▶ ISO認証取得状況

1999年3月 ISO14001(1996年版)を取得

2006年3月 ISO14001(2004年版)で更新

久宝寺事業センター

5 環境保全中期計画 目標及び実績

課題	テーマ	管理指標	基準年度	2009年度			
				目標	実績	自己評価	目標未達の理由
地球温暖化防止	CO2の削減	CO2排出原単位	2008	▲1%	33%	×	生産金額減による原単位悪化
		CO2排出量	2008	▲1%	2.5%	×	サービスカー用燃料加算のため
	物流のCO2削減	CO2排出原単位	2008	▲1%	20%	×	生産金額減による原単位悪化
循環型社会の形成	廃棄物の削減	排出原単位	2008	▲2%	8.9%	×	生産金額減による原単位悪化
	ゼロ・エミッション	埋立比率	—	0.5%以下	3.2%	×	埋立廃棄物の割合増加
	水資源の節約	水使用量原単位	2008	▲1%	25%	×	生産金額減による原単位悪化
有害化学物質の削減	PRTR法対象物質の削減	排出移動原単位	2008	▲2%	▲ 21%	◎	

※自己評価の基準 ◎・・・目標超過達成 ○・・・目標達成 △・・・目標一部達成 ×・・・目標未達成

注)新・環境保全中期計画のCO2排出量実績値の算定の際は、2008年度の単位発熱量及びCO2排出係数を使用しています。

環境 TOPICS

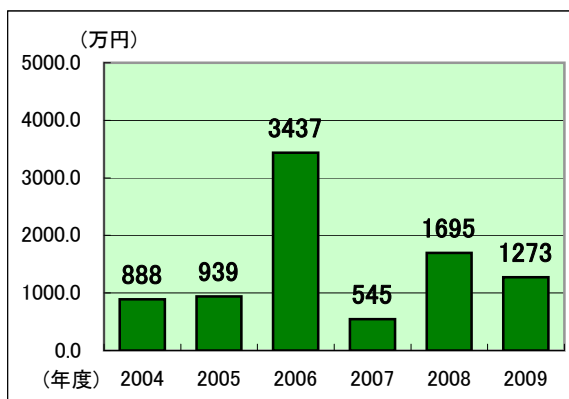
- 1) 廃棄物計量システムの導入により、職場毎・ごみ種毎排出量の見える化を図った。＜実施：平成21年10月＞
- 2) 老朽化ガス空調機2台を更新し、都市ガス使用量及びCO2排出量の削減を図った。＜実施：平成22年3月＞
＜省エネ効果＞ 都市ガス使用量削減＝797m3/年 CO₂排出量削減＝1.7 t-CO₂/年
- 3) ロードセル生産用温度槽を省エネタイプに更新し、電力使用量及びCO2排出量の削減を図った。
＜省エネ効果＞ 電力使用量削減＝1,764kwh/年 CO₂排出量削減＝646kg-CO₂/年
- 4) サービスカーを一般ガソリン車からハイブリッド車に変更し、ガソリン使用量及びCO2排出量の削減を図った。
＜実施：平成22年3月＞
＜省エネ効果＞ ガソリン使用量削減＝1,104 l/年 CO₂排出量削減＝2.5 t-CO₂/年

久宝寺事業センター

6 環境会計

① 環境投資

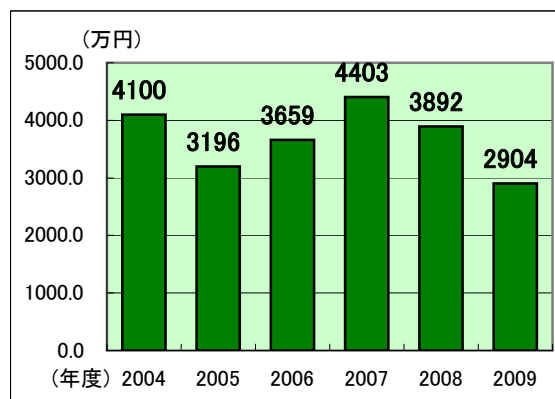
2009年度:1273万円



② 環境保全費用

2009年度:2904.4万円

人件費は含んでいません。



③ 環境保全効果

効果の内容	効果	2008年度	2009年度	効果	対前年度比
事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量(熱換算GJ)	31215	32000	785.00	3%
	水使用量(m ³)	15130	14522	▲ 608.00	▲ 4%
事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO ₂ 排出量(t)	1291	1323	32.00	2%
	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	NO _x 排出量(t)	—	—	—	—
	ばいじん排出量(t)	—	—	—	—
	PRTR対象物質排出・移動量(t)	2.72	1.72	▲ 1.00	▲ 37%
	廃棄物排出量(t)	136.8	116.6	▲ 20.20	▲ 15%
	廃棄物埋立比率(%)<処分残渣含む	1.1	3.2	2.1	191%

④ 経済効果

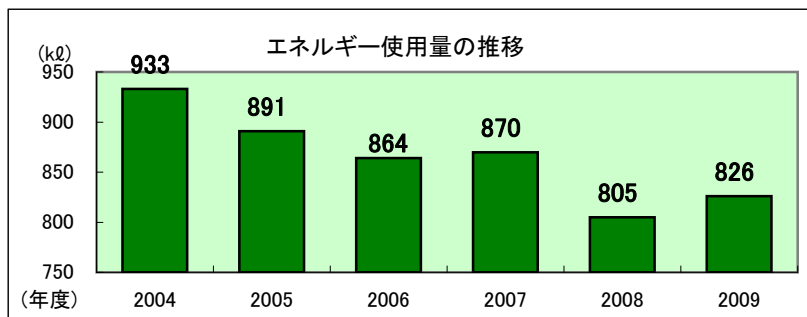
2009年度:131万円

分類	内容	年間効果
省エネルギー対策	老朽化ガス空調機(2台)更新による省エネ	8 万円
	ロードセル生産用温度槽更新による省エネ	3 万円
	サービスカーのハイブリッド車への変更による省エネ	14 万円
物流環境保全対策	他事業所製品との混載輸送による省エネ	50 万円
ゼロ・エミッション化対策	有価物売却金額	56 万円
合 計		131 万円

久宝寺事業センター

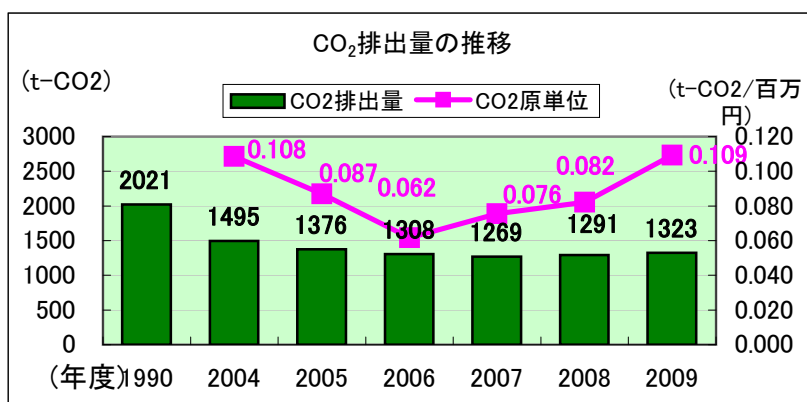
7 環境パフォーマンス

① 地球温暖化の防止 省エネルギー活動



CO₂排出量の削減

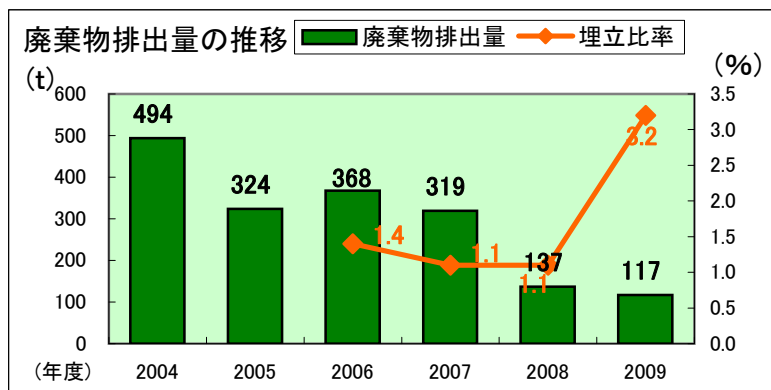
算定範囲や排出係数の見直しに伴い、過去に開示した数値を修正しています。



② 循環型社会の形成 廃棄物排出量の削減

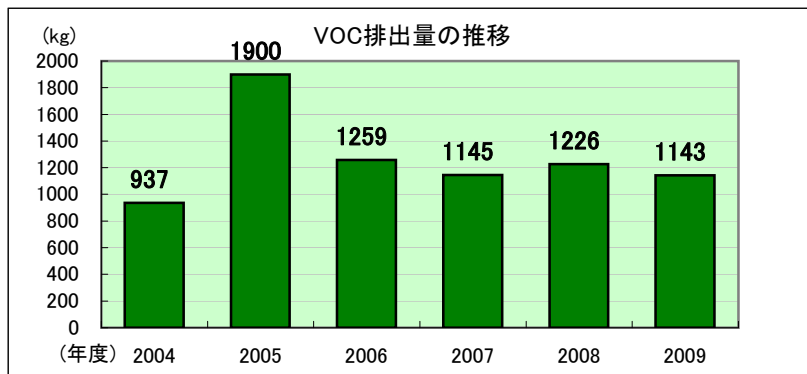
ゼロ・エミッション化

埋立比率(処分残渣含む)の低減
最終目標:2012年度に0.5%以下



③ 有害化学物質の削減 VOC大気排出量の削減

※取扱量が1トン未満のものも
集計しています。



久宝寺事業センター

PRTR法対象物質の排出量・移動量(2009年度)

(単位:kg)

政令No.	物質名称	排出量				移動量	
		大気	公共用水域	土壌	自社埋立	下水道	場外移動
63	キシレン	687	—	—	—	—	202
227	トルエン	346	—	—	—	—	69
40	エチルベンゼン	110	—	—	—	—	237

※取扱量が1トン未満のものも集計しています。

8 環境コミュニケーション

① 地域美化活動

名 称 事業所周辺地域清掃

	日 付	参加人数
1.	2009年4月29日	20名
2.	2009年5月27日	20名
3.	2009年6月24日	20名
4.	2009年7月29日	20名
5.	2009年8月26日	20名
6.	2009年9月30日	20名
7.	2009年10月28日	20名
8.	2009年11月25日	20名
9.	2009年12月23日	20名
10.	2010年1月27日	20名
11.	2010年2月24日	20名
12.	2010年3月31日	20名



久宝寺事業センター



9 サイトデータ

(2009年度実績)

▶ INPUT

項目	単位	使用量	熱量換算GJ
エネルギー	電気	万kWh	240.3
	石炭コークス	t	
	都市ガス	千m ³	117.0
	灯油	kℓ	4.0
	軽油	kℓ	5.0
	重油	kℓ	
	LPG	t	23.3
	ガソリン	kℓ	54.2
	合計	-	32000
水使用量		万m ³	1.5

▶ OUTPUT

CO ₂ 排出量	t-CO ₂	1,323
---------------------	-------------------	-------

排 水	放流先	項目	単位	No.1排水口	
				規制値	測定値
	公共用水域	pH	—	—	—
		BOD	mg/ℓ	—	—
		COD	mg/ℓ	—	—
		窒素	mg/ℓ	—	—
		りん	mg/ℓ	—	—
		六価クロム	mg/ℓ	—	—
		鉛	mg/ℓ	—	—
		COD総量規制値	kg/日	—	—
窒素総量規制値		kg/日	—	—	
りん総量規制値	kg/日	—	—		
下水道	pH	—	5.7～8.7	7.6	
	BOD	mg/ℓ	300	2.0	
	COD	mg/ℓ	—	—	
	SS	mg/ℓ	300	11.0	
	フェノール類含有量	mg/ℓ	5	0.005	
	沃素消費量	mg/ℓ	220	1.9	
	鉱物油	mg/ℓ	5	0.1	
廃棄物排出量			t	116.6	
埋立比率			%	3.2	